

○ミャンマー湿地ワークショップとミャンマーのラムサール条約登録湿地の見学

- ・日時 2016年1月30日(金)～2月5日(金)
- ・会場 ミャンマー ヤンゴン モインジー湿地、インレー湖ほか
※ラムサールセンターのプログラムに参加

・今回のミャンマーの企画に参加した、吾郷諒華さんのレポートを紹介します。

ミャンマー研修 レポート

立命館大学 法学部3年 吾郷 諒華

2016年2月2日～4日、ミャンマーのモインジー湿地で開催された「世界湿地の日2016」記念ワークショップ並びに湿地の管理のための研修、そしてベンガル湾シンポジウムに参加しました。

開催地となったモインジー湿地は、最大都市ヤンゴンから北へバスで2時間ほどのところにあります。ミャンマー唯一のラムサール条約登録湿地で2004年に登録されました。面積は10360ヘクタール、灌漑や洪水防止のために1870年代に貯水池としてつくられた人口湖で、100年以上の間に独自の生態系をつくりだし、現在は野生生物だけでなく地域の人々にとっても重要な湿地となっています。



モインジー湿地

2月2日は早朝から水上ボートに乗ってフィールドワークを行い、スキハシコウ(コウノトリの一種)やオウチョウ(コウライウグイス)、ムラサギなどの様子を観察しました。ワークショップは「世界湿地の日2016」記念事業として実施され、記念式典にはミャンマー政府の環境保全大臣はじめ政府要人、野生生物保護区レンジャー、有識者、NGO代表ら150人が出席し、多くのメディアも詰め掛けました。大臣は開会スピーチで、ミャンマー北部のインドジー湖が第2のラムサール条約登録湿地となったことを発表し、大きな拍手を浴びました。続くワークショップでは、ミャンマー森林局による湿地保全の現状についての紹介のあと、バードライフ・インターナショナル、IUCN(国際自然保護連合)ネパール環境協会、ミャンマーのNGO、ソウル国立大学、タイのマヒドン大学、マレーシア科学大学、インドネシアのスマテラウタラ大学の研究者から、湿地の生物多様性、渡り性水鳥の保護、マングローブの保全と管理などの発表があり、参加者との活発な質疑応答が行われました。



ワークショップでの集合写真

2月3日は、ワークショップに参加した国際専門家を講師に、野生生物保護区を対象にした湿地研修

が開催されました。モインジー湿地、インドジー湖、インレー湖、メインマーラクン湿地など国内7つの保護区レンジャーら20人を対象に「湿地の法制度」「ミャンマーの湿地目録」「メコン流域湿地・大学ネットワーク」などについて学びました。また、私が小学生のころから約10年にわたり参加している、子供を対象にした湿地環境教育「KODOMOプログラム」のレクチャーをRCJの中村玲子事務局長が行い、アジアの湿地保全と日本の国際協力について、日本国際湿地保全連合の名執芳博会長がご教授されました。

2月4日はヤンゴンへ戻り、RCJ主催のベンガル湾の環境保全のためのミニシンポジウムを開催し、インド、バングラデシュ、ミャンマー、タイ、マレーシア、インドネシアの6か国が共有するベンガル湾の環境問題について意見交換し、今後6か国のNGOと研究者が国際協力ネットワークを構築していくことを確認しました。

3日間の3つのプログラムが終わったあと、個人的にインレー湖へと向かいました。ヤンゴンから北へ約450キロ、海拔1300メートル程のシャン高原にあります。インレー湖はモインジー湿地とは雰囲気異なり、湖周辺に住むインダー族の産業を支えるとともに、織物や真珠、銀やたばこなどの製造過程を見学したり、ボートで水上マーケットや寺院を巡ったりと観光地化が進んでいました。観光はとても楽しめましたが、それと同時に急速な人口増加や観光産業の発展により、さまざまな環境問題も起こっています。

今回のミャンマーでの研修は、国を超えた有識者による白熱した議論や、マネジメントという観点からの湿地の見方、さらにベンガル湾のように国をまたいで一つの環境を保護することの意味などたくさんの学びがありました。また、このアジア圏の湿地を通じた強いネットワークも感じる事ができ、とても貴重な経験となりました。

○ユースラムサール・フォトセッション開催

2月2日はラムサール条約事務局が定めた「世界湿地の日」(※)。この世界湿地の日に合わせ、ユースラムサールジャパンでは湿地の大切さを広めるための「写真」を会員から募集しました。

琵琶湖（滋賀県）「オオワシとコハクチョウ」



撮影：富岡知玄くん

琵琶湖（湖北）で活動する富岡知玄くんと、宮城県の大崎市で活動する早坂和希くんの2人から応募がありました。

富岡くんからは、琵琶湖で冬を過ごす「オオワシとコハクチョウ」を、早坂くんからは水辺で冬を過ごすコハクチョウやカモなど水鳥と、昨年秋に大崎市でおこった、水害の様子を写した写真を送ってくれました。

大崎市（宮城県）「水鳥と水害」



撮影：早坂和希くん

※世界湿地の日：1971年2月2日にラムサール条約が制定されたことにちなんだ日で、毎年、世界各地でイベントが開催されています。